

大学教育改革  
支援事業特集

## 「教育に強い関西大学」を目指して—

### 文部科学省選定・教育改革プロジェクトがスタート

#### 産学連携による実践型人材育成事業 (サービスイノベーション人材育成事業)

「プロセスイノベーター育成プログラムの開発」

取組学部：商学部

取組担当者(代表)：商学部 矢田 勝俊 教授

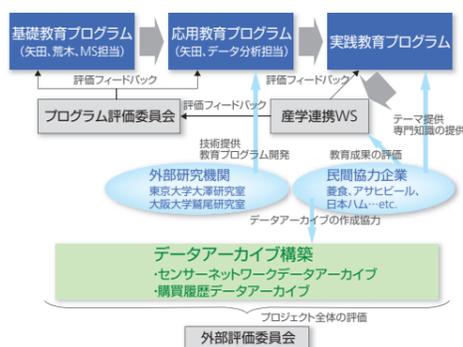
本プロジェクトで育成を目指す「プロセスイノベーター」とは、価値創造プロセスのダイナミクスを理解し、新しい知見をベースに新しいビジネスを創造する人材をいう。そこで求められるのは、第一に、複雑な事象を科学的にとらえ、考える力。第二に、新しい知見を見つけるだけではなく、それを駆使した企画力と実践力、すなわちアクションを起こすこと。そのために、高度な統計数理、データマイニングに関する知識と社会科学の素養を養う。



矢田勝俊教授は、「文理融合の教育は、大学院に入ってからでは遅いので、学部生のうちからビジネスプロセスを科学的に解明できる人材を育成する必要があります」という。本プロジェクトの背景には、2003年に始まったHIP(高度情報処理を利用したインキュベータープロジェクト)で、学生が中心となり、食品、日用雑貨品などのメーカーや小売業と連携し、販促戦略を展開して売り上げ増加を達成した実績がある。その成果が評価され、多数の賞を受賞。「日本ではトップクラスですが、より広く深く、システムティックに進化させなければなりません。それが今回のプロジェクトです」

科学的にとらえる力を育てるために、顧客の購買履歴データ、顧客動線データなどの消費者行動に関する詳細なデータ群を、大規模時系列データアーカイブとして用意する。また、データマイニングなどのコンピュータサイエンスを基礎に、大規模データの時系列解析技術の教育プログラムを開発する。その際に、東京大学の太澤幸生研究室、大阪大学の鷲尾隆研究室と連携し、技術提供を得る。さらに、分析や企画立案の過程で産学連携ワークショップを開催し、企業のメンバーと一緒にアイデアのスクリーニングを行う。

#### ▶学内外の連携体制



#### 大学院教育改革支援プログラム

「参加連携型の大学院教育による社会創造」  
—共同プロジェクトによる「考動力」の育成—

取組研究科：大学院総合情報学研究所

取組担当者(代表)：総合情報学研究所 久保田 賢一 教授

久保田賢一教授は、「参加・連携」と「共同プロジェクト」が本プログラムのキーワードだという。「大学院の研究活動では、単に授業を受けて本を読むだけではなく、フィールドに出て自分とは違う人たちと連携をしながら、実践を通して共同プロジェクトに取り組み、研究をするのが私たちのスタンスです。これまでは個々の教員が研究活動の一環として多様な活動を行ってきたのですが、それを大学院のカリキュラムとして位置づけて単位化していくというのが、今回の基本的な趣旨です」



関西大学が長期ビジョンで打ち出した「考動力」を、「情報手段を用いて社会を創造する力」ととらえ、その力を育成するために「学部との連携」「他大学との連携」「地域社会との連携」「海外との連携」という4つの連携を生かした教育プログラムを編成する。

「学部との連携」では、大学院生はRA/TA制度のもと、学部生のプリセプター指導責任を負い、リーダーとしての資質を養う。「他大学との連携」では、大阪大学、京都大学、日本福祉大学などの連携を強化し、単位互換履修を広げる。「地域社会との連携」では、学校現場やNGO/NPOなどと連携し、インターン制度を導入し、地域が抱える問題の解決に必要なコーディネーション力を培う。「海外との連携」では、韓国の漢陽大学と年に1度、共同研究会を持ち、研究発表を行う。また、フィリピンのブラカン大学と情報教育に関する共同研究を進めたり、ミャンマー、シリアでの教育改善への取り組みを現地組織と連携して行う。

共同プロジェクトに参加している大学院生・学部生が活動報告を記録するeポートフォリオを改良し、「凝縮ポートフォリオ」として教員が定期的にフォローアップする。

#### ▶教育プログラムの実施計画

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
学部との連携	制度の強化(RA/TA枠の拡大、プリセプターシップの導入)	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価
他大学との連携	eポートフォリオ 改良 → 凝縮ポートフォリオ	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価
地域との連携	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価
海外との連携	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価	共同プロジェクト研究活動の記録、形成的評価

有望な教育改革や教育プロジェクトに文部科学省が重点的に予算を配分する平成20年度の3つのプログラムに、関西大学が申請した4件の取組が採択された。各取組の内容をまとめて紹介する。

#### 質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)

「英語に強いプロアクティブ・リーダーの育成」  
—産学官連携・高大連携・海外連携による英語力とプロジェクト実践力の同時強化プログラム—

取組学部：商学部

取組担当者(代表)：商学部 川上 智子 准教授

本プログラムはサブタイトルにあるように、産学官連携・高大連携・海外連携を通じ、プロジェクト実践力と英語力を同時強化することによって、グローバルな舞台で活躍できるプロアクティブ(率先して行動する)・リーダーの育成を目指すものである。「KUBIC(キュービック)」「CORES(コレス)」「BLSP(ビー・エル・エス・ピー)」「BestA(ベスタ)」の4つの教育プログラムを、学部の事業および講義科目として実施する。



「KUBICは、商学部が創設100周年を迎えた2006年に立ち上げた全国規模のビジネスプラン・コンペティションで、学生による学生のためのイベントです」と、川上智子准教授は学生中心の運営で年々発展してきたことを強調する。「ロゴマークやキャラクターグッズも学生の企画。第3回の2008年度は、大学の部、高校の部に加えて、一般の部も創設しました。企業テーマ部門も設置し、毎年5〜7社の協賛があり、企業賞を授与しています」

ビジネスプラン教育プログラムの「CORES」では、KUBICへの応募を目指し、ゼミ形式でビジネスプランの作成方法を学ぶ。2年次の演習で教員が指導し、合同発表会で学生同士が相互評価する。2008年度は12ゼミ、約180人が参加した。

「BLSP」はビジネスリーダー養成特別プログラム。1クラス15人、計45人に2年半のプロジェクト教育を行って英語力を鍛える。ワシントン大学(予定)での海外ワークショップ、外国人客員教授による英語での専門教育、企業と連携した問題解決型の共同プロジェクト、ITを活用したビジネス・シミュレーションなども実施する。

「BestA」は海外ビジネス英語プログラム。イギリスのヨーク・セント・ジョン大学と提携し、現地に1カ月間ホームステイし、ビジネス英語を学ぶ。

#### ▶本事業の概念図



#### 質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)

「ICTを活用した教育の国際化プログラム」  
—留学前、留学後を結ぶ3つの活動を通じた総合的留学教育の実践—

取組学部：全学

取組担当者(代表)：外国語教育研究機構 山本 英一 教授

本プログラムでは、従来の国際交流の問題点を検討し、「過去の経験に学ぶ」ということを出発点としている。「関西大学の交流提携校の中には、活発な交流にまで発展しなかった大学もあります。一つの要因として、本学が送り出した学生が先方の求めている学生像に合わなかったことが考えられます。何かしゃべっているが、議論の中に入っていない、一歩踏み込まれると答えに窮する。そこで何が必要かという、日本人としてのアイデンティティを意識し、日本の歴史、宗教、科学技術などを含む幅広い文化を熟知し、異文化と比較対照しながら、自分の見解を外国語で伝える習慣を身につけること」と、山本英一教授はコンテンツの重要性を指摘する。



そのために、本学が実績を有するICT(授業支援型e-LearningシステムCEAS)による教育手法を活用し、「学ぶ」「語り合う」「実践する」という時間軸に沿った3つの活動を支援する。第一に、学習を促進するために、英語、中国語、日本語の教材として、日本の「知」アーカイブを構築する。第二に、CEASを介した学習コミュニティを形成し、教師と学生および学生同士のコミュニケーションを図る。第三に、知識とコミュニケーション力を応用して現地フィールドワークを実践する。テレビ会議による指導やBBSへの書き込みなどで、留学時にも指導を継続し、適正な評価を行う。

「本プログラムは、国際部が送り出し受け入れる、全学の学生を対象としています。同時に、来年開設される外国語学部で必修となる1年間の留学に対しても適用する予定です。新たな情報が追加される『知』の発展的サイクルに加え、留学生の次の世代に情報が受け継がれていくことで『人』の発展的サイクルも可能になります」

#### ▶取組の継続性・発展性

